

第 13 期第 4 回 長野市緑を豊かにする委員会 会議録

開催日時	令和 2 年 11 月 10 日(火) 午後 1 時 30 分から
開催場所	長野市役所第二庁舎 10 階 203 会議室
委員出席者	委員 14 名 (欠席 0 名)
傍聴者	報道機関 2 名
事務局出席者	都市整備部長他公園緑地課職員 9 名
公開・非公開	公開
次第	会議次第 1 開会 2 委員長挨拶 3 長野市あいさつ 4 議事 1) ながの花と緑大賞 2021 の見直しについて 5 その他 6 閉会

議事	【要旨】 1) ながの花と緑大賞 2021 の見直しについて 資料に基づき、事務局説明 (委員) 毎年テーマを設けてやるものを、大賞の中に小さな賞として今年のテーマ賞という風に別にした方がすっきりすると思う。できるだけたくさんの人にチャレンジしてもらい賞を多くあげるのもいい。関心を持ってもらいたい。 (事務局) 例えば、緑のカーテンを今年の特別テーマとした時、審査基準にそぐわなかったり、別のコンテストになってしまうのではないかと。そうすると、審査基準も別のものを作らなければならない。同じ審査基準でできるテーマがあればいいと思う。 (委員) 同じ審査基準でと言うなら、それは特別テーマを設けなくても今でも入れられると思う。それではつまらない。手間がかかることも考えないと。 (議長) 確かに緑のカーテンだといろんな面で偏りが出てしまうのではないかと。例えば、優秀賞 3 点として特別テーマの部 1 点として優秀賞と並列なイメージにした方が審査基準も変わらずできるのではないかと。 (事務局) 部門別にテーマについて評価、表彰するのはいいと思う。審査時期がずれると公表の時期に問題がある。花と緑大賞 3 部門を先に公表して緑のカーテンを秋口に評価して決定となることでいいのか。 (委員) 緑のカーテンなら夏場の時期に審査となるが、テーマが変われば時期も変わる。一緒に審査できることもある。そうすると、優秀賞 3 点、部門優秀賞という言い方をすればいいと思う。優秀賞 4 点が部門ごとに最高点で決まるものだと明記しておけばいい。
----	--

	(事務局) 部門優秀賞としたいと思う。大賞は点数が一番高いもので良いか。 (議長) 先に大賞を選んで部門優秀賞を選ぶ。 (委員) 全く異質なものを一つの皿の上で審査するのは難しい。点数で評価するということが、個人、団体の部ではコミュニケーション点下る。緑化の取り組みのところで公共花壇をやっているところは高くなってくる。その辺をどう評価の中で調整するのか難しいと思う。緑化の取り組みという点でもいろいろやっているのに評価の中で表れにくい。 (委員) 修正する必要があるのは応募用紙だと思う。応募者は審査項目を見て審査員がこの項目で審査すると分かるのだが、1 から 5 の内容を読んだだけでは審査員は分かりにくい。応募者がどう考えて応募してくれたのか、審査員が見ても分かるように記入してもらいプラス 6 が反映された形の応募用紙にするといい。 (事務局) 審査内容のところに「地域とのコミュニケーション、人との交流についてご記入ください」としたらいいかと思う。 (委員) 部門が違う中でどれか一点を大賞とするのは観点がいろいろで難しい。優秀賞ではなく大賞は無しで部門大賞にするとすっきりする。二位の人は部門優秀賞。 (事務局) かつて、個人の部、団体の部として部門ごとに大賞、優秀賞を出していた。審査基準を統一して部門ごとに大賞を選んでいただく。優秀賞は必要に応じてとすれば応募の数によって変更できる。 (委員) 応募用紙の話になりますが、用紙にどういう審査をするか書いてあるといいと思うが、文章の中に組み込んで記入する形はどうか。
--	---

	(議長) 審査内容を書かなくてもいいが、欄を設けて表現としては一般の方も分かりやすいよう工夫していくということではよろしいでしょうか。 (委員) プロの参加について気になる。市は門戸を広げる気持ちがあるというが、逆に狭めると思う。なぜプロを入れたいのか。 (事務局) プロアマ問わず、応募したいという人はどなたでもどうぞという形にしている。 (委員) プロが入ってくること確かにプロはこんな風にできるんだというメリットもありますが、プロはプロで他で競えばいい。啓蒙活動の一環にプロが入るのはブレーキになる。 (事務局) 花と緑大賞ですが、あくまでも長野市がやっているものですのでプロであろうと企業であろうと個人であろうと一市民に代わりがない。広く門戸を開いて排除すべきではないというのが私どもの考え方です。 (委員) では、はっきりプロの部と書いたらどうか。プロの部を設定する。 (議長) 事務局案では企業団体の部の中にその意味を持たせている。扱いとして「個人であっても企業団体にします」とはっきり明記しているから線引きはできる。いったん、そのような扱いでやっていくことでお願いしたい。 (事務局) 要領 4 にプロの応募とあるが、ここを「園芸、造園、植栽などを生業としている、また、講座で講師などを務め対価を得ている人は企業団体の部へ応募をお願いします」などの表記に変更する。 (委員) 一次審査の説明で、応募者は書類審査のみと思っているのに現地へ職員が行くとなれば大変になるし職員の負担にもなる。書類審査のみにしたらどうか。
--	---

	(事務局) はじめに書類審査、次に現地審査としたいと思う。 (議長) 特別テーマについて委員会で決めるということですが、緑のカーテンでいかがですか。 (委員) 緑のカーテンがいいと思うが、応募時期はどうですか。 (事務局) 緑のカーテンだと 7 月中旬～8 月末頃になり応募期間は長くなる。募集期間を二段階にするか一括で長くするか皆さんからのご意見が今なければ委員長、事務局に一任していただきたい。後日、事務局案として提案させていただく。 (委員) 屋上緑化や壁面緑化をテーマにした方がハードルが低いのではないか。 (議長) 幅広く多くの方が応募しやすいという面では、緑のカーテンの方がいいのではないか。新しい制度を始めるときは身近なものの方が良いと思う。 (事務局) 緑のカーテンも同じように書類審査と現地確認ということで進めます。 (議長) ありがとうございます。議事は以上で終了させていただきます。 (事務局) 委員の皆様には大変お忙しい中、ご出席賜りありがとうございます。また、長時間ご熱心に論議いただき感謝申し上げます。以上をもちまして第 13 期第 4 回長野市緑を豊かにする委員会を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。
--	---